

# 日本教師教育学会 第35回 研究大会

大会テーマ

教師教育と授業

大会プログラム



会期：2025年9月20日（土）・9月21日（日）

会場：宇都宮大学 峰キャンパス

主催：日本教師教育学会

後援：栃木県教育委員会 宇都宮市教育委員会

## 日本教師教育学会第35回研究大会実行委員長より（ご挨拶）

大会実行委員長 上原 秀一

宇都宮大学峰キャンパスにて、日本教師教育学会第35回研究大会を2025年9月20日（土）・9月21日（日）の日程で開催させていただくこととなりました。まことに光栄なことと存じます。多数の御参加者をお迎えできるよう、実行委員会一同、精一杯の準備に努めてまいります。

本大会では、すべてのプログラムを対面で実施いたします。自由研究発表、総会、授賞式、情報交換会、シンポジウム、課題研究発表、ラウンドテーブル、若手交流企画、研究倫理学習会等、昨年度の第34回大会（島根大学）と同様の内容を計画しております。また、国際交流部の御企画による「英語による特設セッション」が新たに設けられることとなっております。

大会テーマは、「教師教育と授業」と設定しました。御参加の皆様には、大会全体を通じて「教師教育と授業」について考えていただければ幸いです。皆様にこのテーマを意識していただけるよう、大会実行委員会は、シンポジウム「教師教育と授業—授業を教える授業の在り方を問う—」を企画しました。シンポジウムの議論をきっかけとして、大会全体を通じて「教師教育と授業」について考えていただきたく存じます。

昨年度の第34回島根大会では、情報交換会を含む全日程で対面開催が復活しました。コロナ禍からの解放感を存分に味わえるすばらしい大会でした。本大会でも島根大会を見習って、実行委員会一同、精一杯の準備をして参加者をお迎えいたしたく存じます。一人でも多くの皆様に御参加いただけましたら幸いです。

## 大会プログラム 目次

大会テーマ	4
日本教師教育学会第35回研究大会要領	5
9月20日(土)大会 第1日	16
第1分科会	17
第2分科会	18
第3分科会	19
第4分科会	20
第5分科会	21
第6分科会	22
第7分科会	23
第8分科会	24
第9分科会	25
第10分科会	26
第11分科会	27
第12分科会	28
第13分科会	29
第14分科会	30
第15分科会	31
第16分科会	32
定期総会	33
授賞式	33
交流会	33
シンポジウム	34
9月21日(日)大会 第2日	35
第17分科会	36
第18分科会	37
第19分科会	38
第20分科会	39
第21分科会	40
第22分科会	41
第23分科会	42
第24分科会	43
第25分科会	44
第26分科会	45
第27分科会	46
第28分科会	47
第29分科会	48
第30分科会	49
第31分科会	50

第32分科会 .....	51
英語による特設セッション.....	52
課題研究Ⅰ .....	53
課題研究Ⅱ .....	54
課題研究Ⅲ .....	55
第4回研究倫理学習会.....	56
ラウンドテーブル.....	57

## 大会テーマ

### 教師教育と授業

第35回研究大会実行委員会は、大会テーマを次のように設定した。「教師教育と授業」である。授業のことを一切考えずに教師教育のことを考えるのは不可能である。教師の仕事は教育である。教育の代表的な方法が授業である。だから、教師教育のことを考えるときには、常に何らかのかたちで授業のことを考えているはずである。しかし、授業のことが常に思考の前面に現れているとは限らない。思考の背後にかくれているかもしれない。

大会テーマを「教師教育と授業」に設定した理由は、「授業」を参加者の思考の前面に出していただきたいからである。「授業」を意識して「教師教育」を研究していただきたいからである。大会実行委員会は、このような願いを込めて大会テーマを設定した。

「教師教育と授業」という場合、「授業」の語には二重の意味が生じる。第一に、〈教師教育の内容としての授業〉という意味である。教師教育を担う教師が授業を教えるのである。

「授業を教える」というのは、「授業」が教育内容であるということである。第二に、〈教師教育の方法としての授業〉という意味である。教師教育を担う教師が授業で教えるのである。

「授業で教える」というのは「授業」が教育方法であるということである。

このように、教師教育の場における授業には、授業を授業で教えるという二重性がある。言い換えれば、教師教育における授業は「授業を教える授業」なのである。したがって、「授業を教える授業の在り方を問う」研究は、教師教育研究の中心領域をなすはずである。しかし、過去の研究大会においては、「授業」の語を含む大会テーマが掲げられたことがなかった。今回初めて「授業」の語を含む大会テーマが掲げられたわけである。「授業」についての問題意識を参加者に共有していただければ幸いである。

以上のように大会テーマを設定することの意義を別の観点から述べる。教育学の世界では「研究者」と「実践者」という語がよく用いられる。大学教師を念頭に「研究者」と言い、幼小中高教師を念頭に「実践者」と言っているようである。日本教師教育学会も例外ではない。しかし、日本教師教育学会はその例外であるべきである。教師教育を研究する場であるのだから当然のことである。大学教師の「実践者」としての側面（大学の授業を実践する者としての側面）をもっと自覚すべきである。また同様に、幼小中高教師の「研究者」としての側面をもっと自覚すべきである。そうすれば「研究者」と「実践者」とを分けて論じているときに自明の前提とされていることが、実は自明ではないことがわかるはずである。本大会の大会テーマにはこのような問題意識も含まれている。

シンポジウムには、大学の教員養成課程における自らの授業実践を論文・著書で論じてこられた研究者に御登壇いただくこととした。大村龍太郎会員（早稲田大学）、根岸千悠会員（京都外国語大学）、百合田真樹人会員（独立行政法人教職員支援機構）、鈴木慶子氏（長崎大学）の4名である。

## 日本教師教育学会第35回研究大会要領

### 1. 大会テーマ

教師教育と授業

### 2. 会期

2025年9月20日（土）、9月21日（日）

### 3. 会場

宇都宮大学 峰キャンパス（〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350）

### 4. 交通案内

#### ■ 宇都宮キャンパス交通案内

<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/outline/map/access.php>

#### ■ 最寄駅JR宇都宮駅からの経路

- JR宇都宮駅西口から 関東バス（14番乗り場）  
真岡行、益子行、ベルモール行、星の杜中学校・高等学校行  
乗車約6分「宇都宮大学前」下車 徒歩1分
- JR宇都宮駅東口から LRT 乗車約6分 「峰」下車 徒歩12分
- タクシー・・・JR宇都宮駅東口から約5分



## 5. 大会会場案内図



### ■キャンパスマップ

<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/convenient/campus-map.php>

### ■メイン会場

- 受付 4号館A棟1階（上記地図 16）
- 分科会会場 4号館A棟、B棟 3～5階（上記地図 16）
- 総会、シンポジウム 8号館D棟、E棟（上記地図 8）
- 情報交換会 大学会館（上記地図 23）
- 会期中の昼食は、大学構内では大学会館の生協食堂（上記地図 23）があります。生協食堂は本大会のために特別に営業してもらいます。ぜひ御利用ください。コンビニエンスストア（上記地図24）もあります。

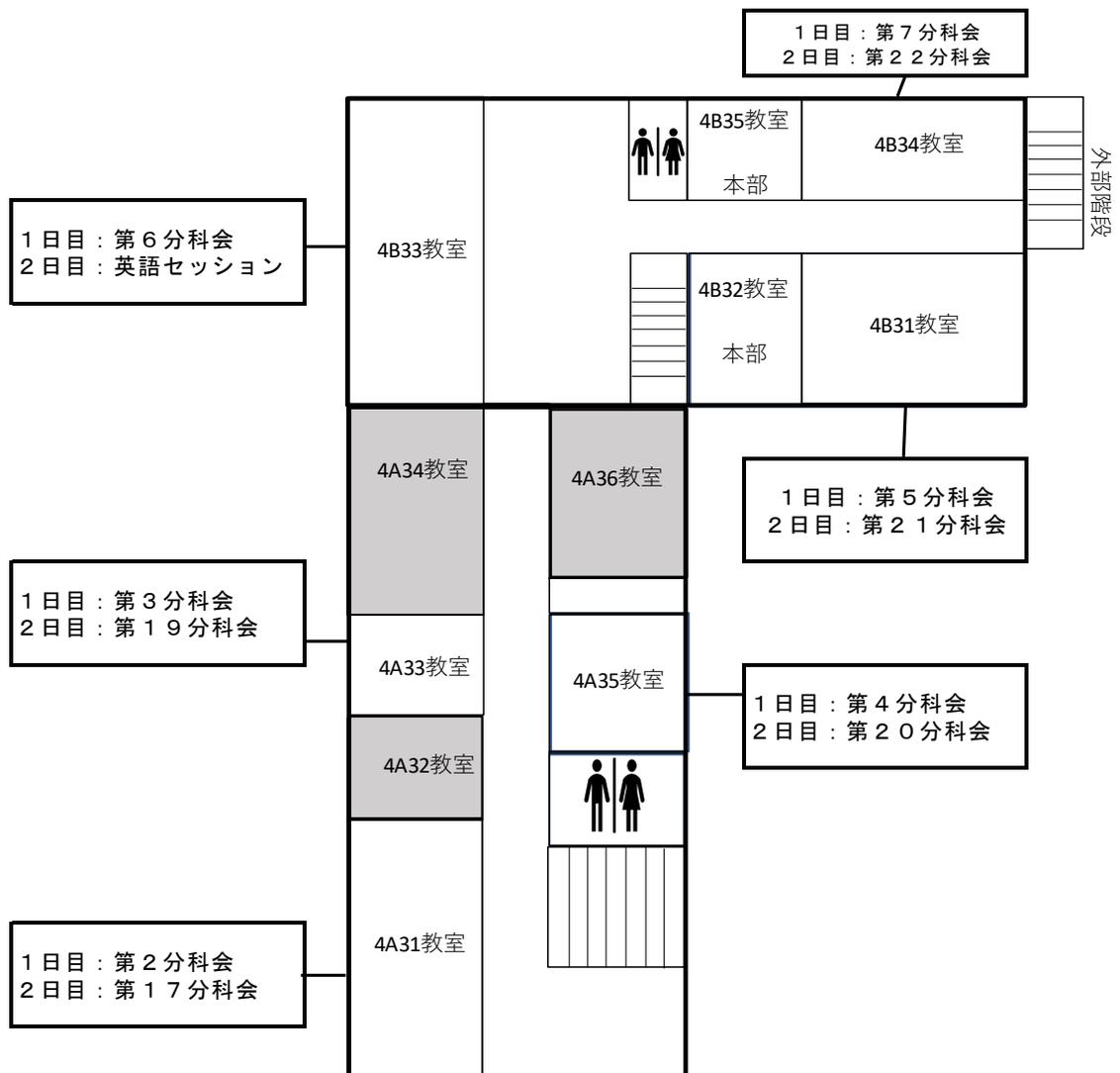
峰町4号館



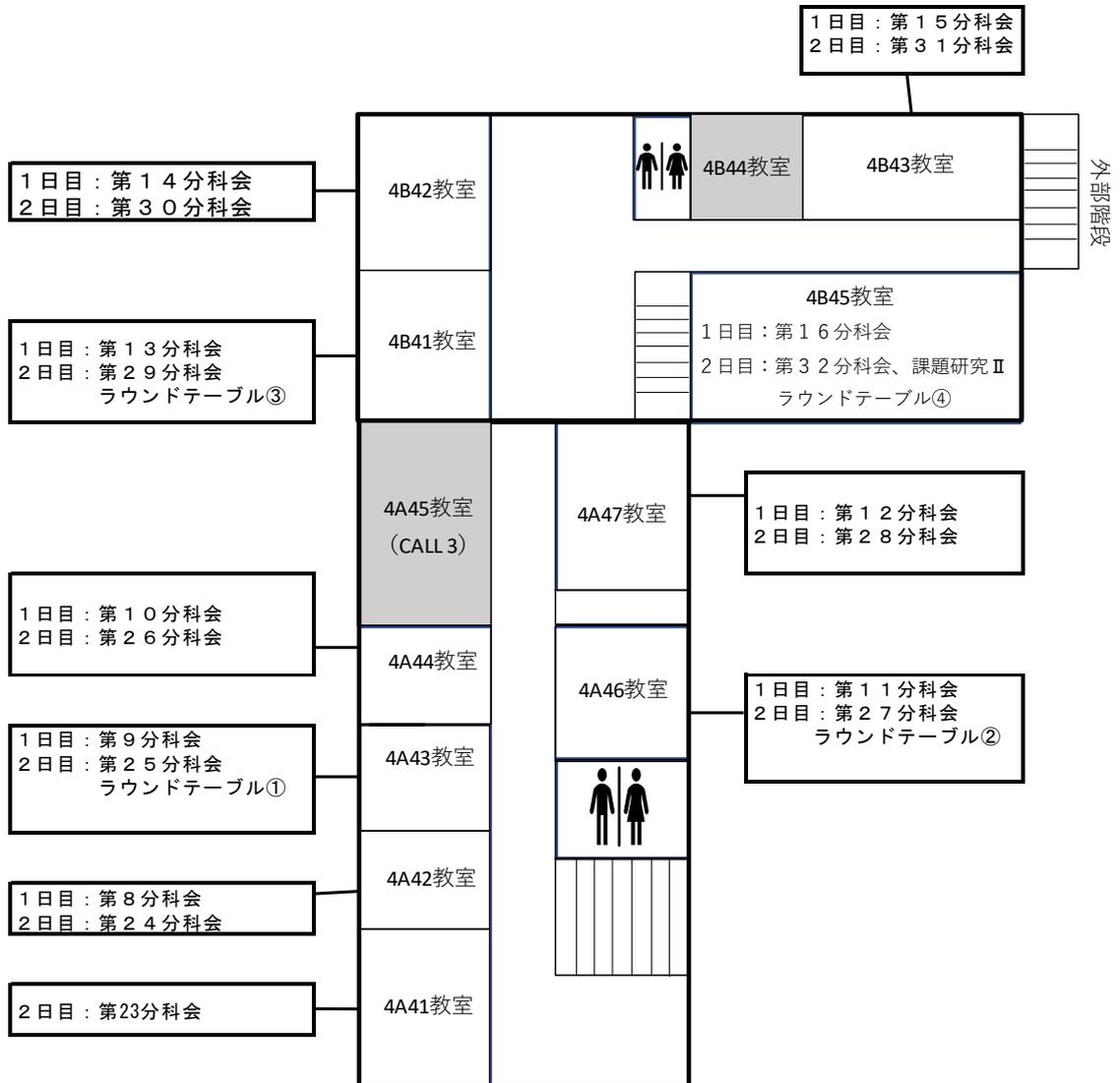
峰町8号館



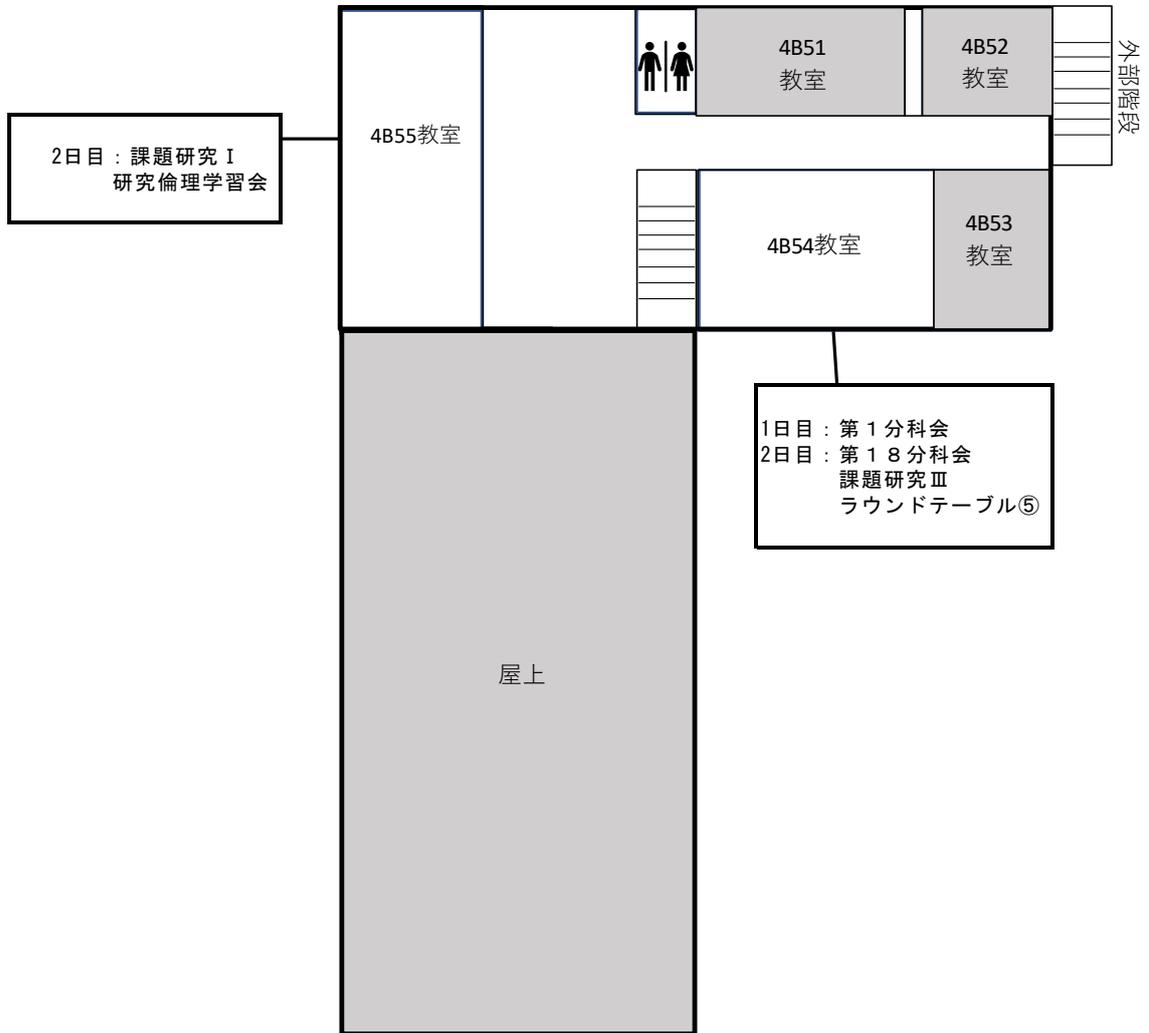
4号館  
3階



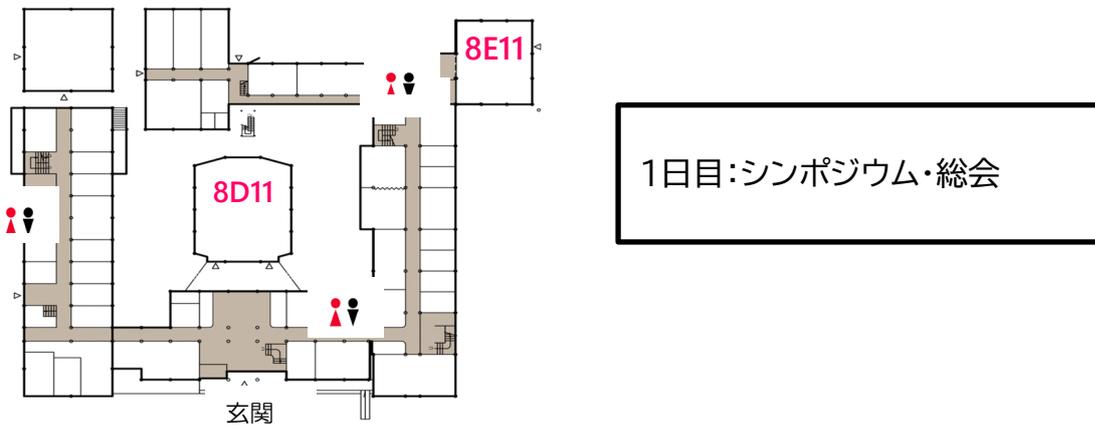
4号館  
4階



4号館  
5階



8号館  
1階



## 6. 日程

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
9月20日 (土)	8:30- 受付 開始	9:30-12:00 自由研究発表			昼食	13:00- 14:00 総会	14:00- 14:30 授賞式	14:40- 15:20 交流会	15:30-18:00 シンポジウム			18:30-20:30 情報交換会	
9月21日 (日)		9:00- 受付 開始	9:30-12:00 自由研究発表		昼食	13:00-16:00 課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			16:15-17:45 研究倫理学習会 ラウンドテーブル				
		9:30-12:00 英語による特設セッション											

## 7. 大会参加方法, 参加費

### ■ 事前参加申込 (8月29日まで申し込めます)

- 【会員 (仮会員) の方】 こちらから <https://members.jsste.jp/info.php>  
(会員情報管理システムからのお申込みになります。会員価格になります。)
- 【非会員の方】 こちらから <https://35th.jsste.jp/attend/application.php>

### ■ 参加資格

- 会員は、2025年度会費を8月29日 (金) までに完納する必要があります。会員・非会員ともに参加費が必要になります。

### ■ 大会参加費

		正会員参加費	非会員参加費
事前申込の場合 (対面)	一般	3,000円	4,000円
	学生	1,000円	3,000円
当日支払の場合 (対面)	一般	4,000円	5,000円
	学生	2,000円	3,000円

- 会員の学生料金申請は、学会HP上の「会費納入方法について」ページ内の「会費学生料金申請」フォームから当該年度に有効な学生証のコピーを事務局に提出してください。  
**※学生証は毎年提出が必要となっております。**昨年度提出していただいた会員の方も再度提出をお願いいたします。

### ■ 大会参加費事前入金方法

- 今年から事前申込にての大会参加費はオンライン決済でお支払いいただくことになりました。8月29日 (金) までに上記の申し込みURLからお振り込みください。  
期日までにお振り込みのない場合は、大会当日に「当日支払」の金額を受付にてお支払い頂くことになり、割高となります。

## 8. 自由研究発表について

- 自由研究発表の口頭発表者が1名の場合は30分（発表20分，質疑10分），口頭発表者が複数の共同発表は50分（発表35分，質疑15分）です。
- 発表取消があった場合は，以降の発表を繰り上げることはせず，その時間を質疑または休憩の時間に充てることにします。
- 各分科会とも，発表と質疑の終了後，残り時間に応じて（最長で12時まで）全体討議を行います（発表者の少ない分科会は40分～1時間程度）。
- 発表者は，全体討議が終了するまで，分科会の会場に在席してください。やむを得ず事前に退席する際は，事前に司会者にその旨を伝えてください。
- 発表者と司会者は，分科会の開始10分前には発表会場に集合し，簡単な打ち合わせを行ってください。
- 分科会の発表では，次のように計時します。
  - ・個人発表及び口頭発表者が1名の共同発表の場合  
1鈴：15分 2鈴：20分 3鈴：30分
  - ・共同発表の場合  
1鈴：30分 2鈴：35分 3鈴：50分

## 9. 発表に係る機材について

- 全ての会場にプロジェクターとスクリーンを設置しています。「11. 分科会等会場一覧」でご確認ください。
- 各会場とも接続はHDMIです。
- 発表に必要なノートパソコンや，ケーブルとの接続に必要なアダプタ類は各自で持参ください。
- 動画再生をする場合は各自ご持参のノートパソコンよりお願いします。
- 分科会開始前に，必ず各自使用される機器との接続のチェックを行ってください。

## 10. 発表資料について

- 自由研究発表の発表資料等は，60部程度を各自でご用意いただき，当日の分科会開始10分前までに会場のスタッフに提出してください。
- 課題研究，ラウンドテーブル等の発表資料は，各自で必要部数をご用意のうえ，開始時に企画者が配布してください。
- 大会事務局では，発表資料等の追加の印刷はできかねます。また発表資料の事前送付も受け付けておりません。なにとぞご了承ください。

## 11. 分科会等会場一覧

階・教室		9月20日（土）	9月21日（日）		
		9:30-12:00	9:30-12:00	13:00-16:00	16:15-17:45
3階	4A31	第2分科会	第17分科会		
	4A33	第3分科会	第19分科会		
	4A35	第4分科会	第20分科会		
	4B31	第5分科会	第21分科会		
	4B33	第6分科会	英語セッション		
	4B34	第7分科会	第22分科会		
4階	4A41		第23分科会		
	4A42	第8分科会	第24分科会		
	4A43	第9分科会	第25分科会		ラウンドテーブル①
	4A44	第10分科会	第26分科会		
	4A46	第11分科会	第27分科会		ラウンドテーブル②
	4A47	第12分科会	第28分科会		
	4B41	第13分科会	第29分科会		ラウンドテーブル③
	4B42	第14分科会	第30分科会		
	4B43	第15分科会	第31分科会		
	4B45	第16分科会	第32分科会	課題研究Ⅱ	ラウンドテーブル④
5階	4B54	第1分科会	第18分科会	課題研究Ⅲ	ラウンドテーブル⑤
	4B55			課題研究Ⅰ	研究倫理

## 12. 定期総会・授賞式

1日目の13:00～14:00に8号館8D11教室にて定期総会を行います。会員の皆様の参加をお願いいたします。定期総会終了後に研究奨励賞の授賞式が予定されています。

### 13. シンポジウム

- テーマ：教師教育と授業
- 日時 9月20日（土）15：30～18：00
- 場所 8D11、8E11教室
- 登壇者
  - ・大村龍太郎（早稲田大学）
  - ・根岸千悠（京都外国語大学）
  - ・百合田真樹人（独立行政法人教職員支援機構）
  - ・鈴木慶子（長崎大学）
- コーディネーター
  - ・上原秀一（宇都宮大学）

### 14. 英語による特設セッション

- 9月21日（日）9：30～12：00

### 15. 課題研究

- 9月21日（日）13：00～16：00
  - ・ 課題研究Ⅰ：年報34号特集「『実践研究』を問う」をめぐって
  - ・ 課題研究Ⅱ：教師教育学の研究アプローチ
  - ・ 課題研究Ⅲ：〈地域的文脈〉からひも解く教員不足問題

### 16. 研究倫理学習会

- 9月21日（日）16：15～17：45  
教師教育研究における「実践研究」のデザインと倫理

### 17. ラウンドテーブル

- 9月21日（日）16：15～17：45
  - ①教師・教師教育者の専門性の探究：「セルフスタディ実践のひろば」研修会報告
  - ②国際的なディスコースから教師教育のあり方を再考する
  - ③教師の仕事に関する中国最新調査研究の動向  
—東北師範大学の中国教師発展報告を中心にして—
  - ④教師養成と子ども文化—そして遊べる教師がいなくなった⑩  
—幼保小連携・接続に向けた今後の教員・保育者養成のあり方を考える—
  - ⑤学校を基盤とする教師教育者の専門性育成

## 18. 交流会／情報交換会について

### ● 交流会

9月20日(土)の14:40～15:20(授賞式後)に、会員相互の情報交換と親睦を深めるための交流会を設けます。研究大会への参加申込を事前にされた方にコーヒーを無料でお配りします。皆様のご参加をお待ちしております。

### ● 情報交換会

9月20日(土)18:30～20:30に会員相互の情報交換と親睦を深めるため、峰キャンパス内、大学会館にて情報交換会を実施します。情報交換会では、宇都宮名物の餃子を宇都宮市餃子会の職人さんにその場で焼いてもらってお出しします。情報交換会会場の食材手配のために事前申込を必須とします。

- 9/1(月)までに以下のフォームから必ず申込を行って下さい。

[第35回研究大会 情報交換会 参加申込フォーム](#)

- 情報交換会会費

- ・教員等 4500円
- ・大学院生・学生 3000円

※大学院生・学生の参加を促すため、コンベンション支援金から参加費の助成を行います。大学院生として所属があるもしくは本学会で学生会員として登録されていても、大学教員や学校教員等で兼職がある人については事前申込フォームで必ず「教員等」を選択していただき、学生料金は不可とします。

※情報交換会会費は当日集金いたしますので、釣りの無いようご準備いただけると幸いです。

## 19. 託児について

- 日本教師教育学会第35回研究大会の開催にあたって、託児サービスを行います。会員の利用は無料です。
- 託児予定先は確保してありますが、託児利用条件の詳細に関しては、申込者の有無および利用希望を確認してから託児予定先と話を詰めることになっています。
- 対象は、日本教師教育学会第35回研究大会に参加する日本教師教育学会会員・非会員の生後3カ月から小学校6年生までのお子さまです。

着替え、食事、おやつ、おむつなど、お子様に必要なものはすべてご持参いただくことになります。調理の必要なものはお預かりできません。

個人情報の取扱いについて。託児利用希望において提出していただいた個人情報は、適正に管理し、当該事業以外の目的に使用いたしません。提出された個人情報は、託児業務を委託する予定の「まなびの森保育園」と共有いたします。ご了承ください。

託児を希望する会員は、託児利用申込書に必要事項をご記入ください。必要事項を記入し、pdfあるいは画像データを添付して、以下の日本教師教育学会第35回大

会実行委員会のメールアドレスまで送信してください。

- [託児申込書](#)
- 日本教師教育学会第35回大会実行委員会： jsste35[at mark]gmail.com 【[at mark]を@に変換してください】
- 申し込みの締め切りは、8/27（水）となります。申込者の希望を確認した上で託児予定先と託児利用条件の詳細について話を詰め、大会実行委員会から申込者に利用条件の詳細を改めてご連絡いたします。
- 非会員で託児を希望される方についても受入は可能です。ただし、非会員の利用にあたっては料金がかかりますので、事前に上記のメールアドレスにご連絡ください。
- 託児にあたっての相談、確認についても上記のメールアドレスにお問い合わせください。

## 9月20日(土)大会 第1日

1. 自由研究発表
2. 定期総会（学会員のみ）
3. 交流会
4. シンポジウム

## 第1分科会

司会：高旗浩志（岡山大学）

9:30~10:00

M. コクラン＝スミスの「強力な公正性」概念の射程

○木場 裕紀（東京電機大学）

10:00~10:30

2016年度免許法改正前後の教員養成カリキュラムの構造変容に関する考察  
－「大学において独自に設定する科目」の運用実態に焦点づけて－

○安藤 知子（上越教育大学）

10:30~11:00

教師のアイデンティティをめぐる議論

○深見 俊崇（島根大学）

11:00~11:30

教員チームのチームワーク・プロセス及びチームワーク効力感と専門的学習活動との関連

○米沢 崇（広島大学）  
中井 悠加（島根県立大学）

11:30~12:00

全体討議

## 第2分科会

司会：樋口直宏（筑波大学）

9:30~10:00

特別支援学級担任教師のための研修プログラム開発  
—対話的な学びを促進する教師の実践性—

○太田 裕子（聖徳大学大学院）  
荒巻 恵子（帝京大学大学院）

10:00~10:30

若手教師支援を担うメンターが直面する課題の特徴

○島田 希（大阪公立大学大学院）

10:30~11:00

実践力を育む教師教育の再構築—大学・地域・現職教員をつなぐ「教師塾」の試み

○内田 仁志（環太平洋大学）

11:00~11:30

メンタリングを通じた中堅日本語教師支援の実践に関する一考察

○小坂 凜（京都産業大学）

11:30~12:00

全体討議

## 第3分科会

司会：佐藤仁（福岡大学）

9:30~10:00

オランダにおけるイエナプラン受容の実際と課題 —教師の教育実践に着目して—

○横溝 俊（兵庫教育大学大学院）

10:00~10:30

少子化と教員の非正規化：台湾の代理教員にみる就労実態とその受容

○菊地原 守（鹿屋体育大学）

10:30~11:00

オーストラリア・アメリカの高校生に対する移民言語指導 ～大阪府の実際と比較して～

○瓜生 彩子（大阪教育大学）

11:00~11:30

現代米国教員養成における「保護者との関係構築」支援に関する一考察

○太田 知実(明治大学)

11:30~12:00

全体討議

## 第4分科会

司会：八田幸恵（大阪教育大学）

9:30~10:00

生徒の授業評価から見る教員の資質能力（4）～生徒と向き合う時間～

○山口 隆範（びわこ成蹊スポーツ大学）

10:00~10:30

自身の「見え」をどう語るかーアイトラッキングシステムを活用した若手教師と中堅教師の視線配布リフレクションからー

○大島 崇行（上越教育大学）

10:30~11:20

語り合うことで見えてくる教師教育者の姿ーセルフスタディ×ナラティブ分析の実践から

○森野 かおり（横浜国立大学）

○小畑 真梨子（三重大学）

11:20~12:00

全体討議

## 第5分科会

司会：木原俊行（四天王寺大学）

9:30~10:00

教育実習生を指導する学校現場の教師教育者の資質能力とは何か  
—教育実習生への調査からの報告—

○田中 里佳（三重大学）

10:00~10:30

発表取消

10:30~11:20

国立大学の教師教育改革をどう進めるか —「政策⇔実践の往還」の構築に向けて—

○島田 桂吾（静岡大学）

○長谷川 哲也（岐阜大学）

○梅澤 収（静岡大学）

11:20~12:00

全体討議

## 第6分科会

司会：矢野博之（大妻女子大学）

9:30~10:00

生成AIによる児童役シミュレーションが 教員志望学生の応答的指導力に与える効果  
——GPT〈イケダ少年〉との対話演習の実証分析——

○池田 修（京都橘大学）

10:00~10:30

自己内省とグループでの対話による若手教員研修に関する一考察

○一ノ瀬 里紗（明石市立二見西小学校）

10:30~11:00

セルフスタディにおける授業者とクリティカルフレンドの相互作用と知の共創過程

○梶井 大輔（大谷大学）

増田 修平（京都成章高校）

11:00~11:30

教職志望学生の考える対面型学校授業の意義

○林 美都子（北海道教育大学）

11:30~12:00

全体討議

## 第7分科会

司会：百合田真樹人（独立行政法人教職員支援機構）

9:30~10:00

在外教育施設の教員に求められる力量—補習授業校に通う家族への聞き取り調査からの考察

○鶴田 百々（中村学園大学）

10:00~10:30

幼児教育及び小学校算数・理科で培うサステナビリティ・コンピテンシーに関する考察：  
豪州のカリキュラムを手がかりに

○大貫 麻美（白百合女子大学）

原口 るみ（東京学芸大学）

10:30~11:00

中国の「義務教育課程標準」にみる義務教育課程改革の動向

○臧 俐（東海大学）

11:00~11:30

在外教育施設派遣教師の帰国後：教師の職能開発の視点からの成果と課題

○香川 奈緒美（島根大学）

11:30~12:00

全体討議

## 第8分科会

司会：勝野正章（東京大学）

9:30~10:00

新しい研修制度と教師の研修権

○清水 大惇（北海道公立学校）

10:00~10:30

発表取消

10:30~11:00

戦後初期の大学・短期大学における幼稚園教員養成カリキュラム

○後藤 正矢（多摩美術大学）

11:00~

全体討議

## 第9分科会

司会：三石初雄（東京学芸大学・名誉教授）

9:30~10:00

個人的な資質・能力論に基づく教師教育の超克

—胎児性水俣病患者との交流を通して教職学生は何を見て感じたか?—

○大木 匡尚（開智国際大学）

10:00~10:30

アジアの授業研究における教師の学習過程に関するシステムティックレビュー

○滝本 葉子（学習院大学）

10:30~11:20

現職院生の「特権」に対する理解はどのようにして深まるか

—「特権」の理解に影響を与えた要因の考察を通して—

○徳永 生（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）

○米本 和弘（東京学芸大学教職大学院）

11:20~12:00

全体討議

## 第10分科会

司会：池上徹（関西福祉科学大学）

9:30~10:00

パソコンの必携化に伴う教育学部学生のICT機器の利用実態

○藤原 靖浩（関西福祉科学大学）

10:00~10:30

教員養成課程の「教育原理系科目」講義における教材研究について  
—漫画等の活用を通して—

○中塚 健一（小田原短期大学）

10:30~11:00

教員養成におけるアートの可能性—EGAKUを活用した探究的マインドの育成

○井藤 元（東京理科大学）

羽野 ゆつ子（大阪成蹊大学）

山崎宣次（神戸女子大学）

紅林伸幸（常葉大学）

11:00~11:30

教師自身の学び（研修観）の転換」の一考察とICT等を活用する研修モデルの試案

○江尻 寛正（熊本大学大学院（岡山県教育庁義務教育課））

11:30~12:00

全体討議

## 第11分科会

司会：森透（福井大学・名誉教授）

9:30~10:00

「保育・教職実践演習」を活用したキャリア教育の一考察  
～ふきこぼれ教員と越境先生の語りを通して

○元木 廉（越谷保育専門学校）

10:00~10:30

管理栄養士養成課程履修者の教職課程選択に関する考察—栄養教諭の事例から—

○伊藤 智代（倶知安町立東小学校）

10:30~11:20

教員からの転職理由に関する一考察  
—「ふきこぼれ」教員の多様な語りに着目して

○坂本 建一郎（大阪公立大学大学院）

○伊井 義人（大阪公立大学）

11:20~12:00

全体討議

## 第12分科会

司会：宮橋小百合（和歌山大学）

9:30~10:00

地域をともにつくる「地域創造型教師」養成に向けた「『越境』的教員養成」の可能性  
ー北海道教育大学釧路校における酪農家民泊体験の事例からー

- 宮前 耕史（北海道教育大学釧路校）
- 半澤 礼之（北海道教育大学釧路校）

10:00~10:30

地域パートナーシップ型教職基礎科目の構築と試行

- 寺本 妙子（開智国際大学）

10:30~11:20

コーチングの視点を入れた授業研究から生じる教育観の深まりー戸山の取り組みからー

- 熊本 貴文（広島市立戸山小中一貫教育校）
- 村上 忠幸（京都教育大学）

11:20~12:00

全体討議

## 第13分科会

司会：別惣淳二（兵庫教育大学）

9:30~10:00

教職大学院生はアクション・リサーチの経験から、教育者としての自己をどのように形成するのか —学部卒教職大学院生によるセルフスタディ—

○原田 真紘（広島大学）

10:00~10:30

教職員研修における哲学対話実践の意義に関する考察

○岡村 健太（九州ルーテル学院大学）

10:30~11:20

教職大学院における臨床心理学的な授業観察法の試み(3)  
—ディスカッションプロセスについての検討—

○西村 佐彩子（京都教育大学）

○野々山 康弘（京都教育大学附属京都小中学校）

木村 進哉（京都教育大学附属特別支援学校）

秋山雅文（京都教育大学附属桃山中学校）

佐藤卓也（京都市総合教育センター）

11:20~12:00

全体討議

## 第14分科会

司会：玉井康之(北海道教育大学)

9:30~10:00

小学校教員の養成・採用・研修制度の機能に関する研究  
—制度的類型と政策的議論の分析を通じて—

○小林 大介(玉川大学大学院)

10:00~10:30

若手教員の授業実践力を高めるためのミドル・リーダーのかかわり  
—算数科の授業の省察を通して—

○木村 千尋(福島大学教職大学院)  
大橋 淳子(福島県教育委員会)

10:30~11:20

新任教員は「教職ブラック論」をどうみているのか?  
—学生時代の教職観との変化に注目して—

○長谷川 誠(神戸松蔭大学)  
○古市 文章(佛教大学)  
○浅田 瞳(京都文教大学)  
原 清治(佛教大学)

11:20~12:00

全体討議

## 第15分科会

司会：浅野信彦（文教大学）

9:30~10:00

学び合う教師文化を醸成する校内研究の推進  
—公立H中学校における事例を通して

○延山 和弘（岸和田市立春木中学校）

10:00~10:30

教員養成学部の学生が教員志望をやめるのはなぜ  
—教員を「あきらめる」から？

○小原 一馬（宇都宮大学）

10:30~11:20

越境的学びを通じた「外国につながる子どもの教育」のリーダー育成  
～横浜市における日本語指導者養成講座の実践から～

○横溝 亮（横浜市教育委員会事務局）

○齋藤 ひろみ（東京学芸大学）

11:20~12:00

全体討議

## 第16分科会

司会：紅林伸幸（常葉大学）

9:30~10:00

アスリートの教職キャリア形成—スペシャリスト採用教員に着目して

○吉川 孝（京都教育大学）

10:00~10:30

中途入職教員の教職キャリア初期における組織内での成長に関する課題  
—ナラティブ・インタビューの分析から—

○三島 泰樹（神戸大学）

LASSILA ERKKI TAPIO（神戸大学）

10:30~11:20

社会人から教員になるということ—英語科教員へのインタビュー調査から—

○田所 貴大（宇都宮大学）

○本田 勝久（千葉大学）

11:20~12:00

全体討議

## 定期総会

日時： 2025年9月20日（土） 13：00～14：00

9月20日(土)13:00~より定期総会を行います。会場は8号館8D11、8E11教室です。会員の皆様の参加をお願い致します。

## 授賞式

日時： 2025年9月20日（土） 14：00～14：30

定期総会後に研究奨励賞の授賞式を行います。会場は8号館8D11、8E11教室です。会員の皆様は、定期総会終了後に引き続きご参加をお願い致します。

## 交流会

日時： 2025年9月20日（土） 18：30～20：30

14:40～15:20（授賞式後）に、会員相互の情報交換と親睦を深めるための交流会を設けます。研究大会への参加申込を事前にされた方にコーヒーを無料でお配りします。皆様のご参加をお待ちしております。授賞式終了後に、8D11教室にて、会員相互の情報交換と親睦を深めるための交流会を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

# シンポジウム 教師教育と授業 —授業を教える授業の在り方を問う—

## 【趣 旨】

授業のことを一切考えずに教師教育のことを考えるのは不可能である。教師の仕事は教育である。教育の代表的な方法が授業である。だから、教師教育のことを考えるときには、常に何らかのかたちで授業のことを考えているはずである。しかし、授業のことが常に思考の前面に現れているとは限らない。思考の背後にかくれているかもしれない。「授業」を思考の前面に出すべきである。「授業」を意識して「教師教育」を研究するべきである。

「教師教育と授業」という場合、「授業」の語には二重の意味が生じる。第一に、〈教師教育の内容としての授業〉という意味である。教師教育を担う教師が授業を教えるのである。「授業を教える」というのは、「授業」が教育内容であるということである。第二に、〈教師教育の方法としての授業〉という意味である。教師教育を担う教師が授業で教えるのである。「授業で教える」というのは「授業」が教育方法であるということである。

このように、教師教育の場における授業には、授業を授業で教えるという二重性がある。言い換えれば、教師教育における授業は「授業を教える授業」なのである。したがって、「授業を教える授業の在り方を問う」研究は、教師教育研究の中心領域をなすはずである。教育学の世界では「研究者」と「実践者」という語がよく用いられる。大学教師を念頭に「研究者」と言い、幼小中高教師を念頭に「実践者」と言っているようである。しかし、教師教育を研究する場においては、大学教師の「実践者」としての側面（大学の授業を実践する者としての側面）がもっと強く意識されるべきである。

本シンポジウムのコーディネーターは、大学教師の「実践者」としての側面を意識して、4名の登壇者に御登壇をお願いした。大村龍太郎会員、根岸千悠会員、百合田真樹人会員は、ともに『日本教師教育学会年報』に実践研究論文を発表している。鈴木慶子氏（非会員）は、シリーズ「大学の授業実践」（宇佐美寛監修）全四冊の一冊である『文字を手書きさせる教育—「書写」に何ができるのか』（東信堂、2015年）の著者である。

日時 9月20日（土）15:30～18:00

## 登壇者

- ・大村龍太郎（早稲田大学）
- ・根岸千悠（京都外国語大学）
- ・百合田真樹人（独立行政法人教職員支援機構）
- ・鈴木慶子（長崎大学）

## コーディネーター

上原秀一（宇都宮大学）

質問記入用サイト

<https://forms.gle/aXe7TcGnCiuXcdw78>



## 9月21日(日)大会 第2日

1. 自由研究発表
2. 課題研究Ⅰ
3. 課題研究Ⅱ
4. 課題研究Ⅲ
5. 英語による特設セッション
6. 研究倫理学習会
7. ラウンドテーブル

## 第17分科会

司会：前田一男（立教大学・名誉教授）

9:30~10:00

経験や感性を基盤とした算数科に向き合う教員養成

○永山 香織（開智国際大学）

10:00~10:30

教育実習経験が教職モチベーションに及ぼす影響

— 実習前後の志望度変化と自由記述分析を通して —

○冨江 宏（大和大学）

10:30~11:00

実行機能の個性に対する認識が教育実習における自己評価に及ぼす影響

— 教育実習前半終了時における検討 —

○田爪 宏二（京都教育大学）

森田 健宏（関西外国語大学）

11:00~11:30

教育実習中に関わる他者の影響

○櫻田 裕美子（別府大学）

11:30~12:00

全体討議

## 第18分科会

司会：丸山剛史（宇都宮大学）

9:30~10:00

小学校英語教職科目における ALT との Team Teaching の試行 — 自己決定理論の視点から —

○西田 寛子（中国学園大学）

10:00~10:30

「グローバル教育」実践者育成を目的とする授業実践と評価（2）

○笠井 正隆（関西外国語大学）

森田 健宏（関西外国語大学）

10:30~11:00

高校生の探究活動に伴走する「総合的な学習の時間の指導法」を通して見た、  
探究的な学びを育む教員の資質養成 その2

○宮崎 充治（弘前大学）

11:00~11:30

中学校数学科教師の教科書アレンジ力についての一考察

○天野 秀樹（広島大学附属東雲中学校）

11:30~12:00

全体討議

## 第19分科会

司会：長谷川哲也(岐阜大学)

9:30~10:00

実践者のエージェンシーを生み出す参加型研修のデザイン

- 後藤 郁子(お茶の水女子大学)
- 井上 和香(静岡大学)

10:00~10:30

道徳科を核とした校内マネジメントづくり

- 山本 理恵(千葉県山武市立山武北小学校)

10:30~11:20

他者との関わり合いを通してウェルビーイングを実感させる指導法の開発

- 石橋 昌雄(前 立正大学)
- 大高 幸一郎(東京都立川市立第六小学校)
- 大道 雅士(東京都世田谷区立塚戸小学校)
- 村上 智子(東京都立川市立大山小学校)

11:20~12:00

全体討議

## 第20分科会

司会：香川奈緒美（島根大学）

9:30~10:00

学校におけるジェンダー・バイアスを考えるための教師対象ワークショップの構想：インプロ上演形式「ザ・ベクデルテスト」考案者との試行実践から

○園部 友里恵（三重大学）

10:00~10:30

小学校長の教職人生と信念の形成過程(2) -3人のTEM図とライフストーリーに注目して-

○五十嵐 誓（尚絅学院大学）

10:30~11:00

高校における女性管理職の育成についての事例研究  
-女性教師のリーダーシップ経験を中心に-

○小島 江津子（筑波大学人間総合科学学術院）

11:00~11:30

『民間人校長等』の経年変化～変遷と課題、未来へ

○中田 正浩（四条畷看護学校）

11:30~12:00

全体討議

## 第21分科会

司会：安藤知子（上越教育大学）

9:30~10:00

小学校教師の授業視聴時の視線と認知に関する研究

○相良 雄一郎（慶應義塾大学）

10:00~10:30

地域の授業研究会におけるケース・メソッドに基づく教師の学び  
— Shulman, Lee.S.の「ケース・メソッド」を手がかりとして —

○長谷川 慶子（所属なし）

10:30~11:20

社会的エンゲージメントの見とり指標の作成

○野村 幸代（高知大学）

○時久 祥香（高知大学大学院）

11:20~12:00

全体討議

## 第22分科会

司会：上原秀一（宇都宮大学）

9:30~10:00

教育実践の語りから見る小学校担任教師の学級経営に対する認識  
—M-GTAによる学級経営に対する認識形成の構造分析を通して—

○松本 浩司（北広島町立八重小学校）

10:00~10:30

政策文書が示す教師の望ましい職能発達モデルの変遷—中央教育審議会答申を中心に—

○河村 健太（京都市教育委員会事務局）

10:30~11:00

教師の「ねがい」に関する基礎的検討

○大日方 碧（慶應義塾大学大学院）

11:00~11:30

探究を通じてトランスフォームする教師の専門性  
—高校教師の語りにもとづく新たな教師の役割と能力の分析—

○木村 優（福井大学）

11:30~12:00

全体討議

## 第23分科会

司会：瀧本知加（京都府立大学）

9:30~10:00

教職コミットメント尺度の開発の試み  
—教職継続を支える諸要因の構造的理解に向けて—

○高橋 智男（東北学院大学大学院）

10:00~10:30

教師の人的ネットワークの実態—中学校教師の事例から

○兼安 章子（福岡教育大学）

10:30~11:20

日本の教育をティーチングとコーチングの視点で捉える試み  
—オランダのコーチングから見えること

- 村上 忠幸（京都教育大学）
- 河村 直子（男山第三中学校）
- 村上 美香（姫路市立安室小学校）
- 米谷 直剛（大阪市立住之江小学校）
- 富永 岳（オラニエ）  
熊本 貴文（広島市立戸山小中一貫教育校）

11:20~12:00

全体討議

## 第24分科会

司会：渡辺貴裕（東京学芸大学）

9:30~10:00

模擬授業における「学習者になる」という経験

—対話型模擬授業検討会とインプロを経験した教職大学院生の対話から

○廣瀬 雄二郎（豊島区立西池袋中学校）

10:00~10:30

学生と教師が学び合う教育実習を目指して

○穴戸 佳央理（奈良女子大学附属幼稚園）

10:30~11:20

授業づくりの知の生成と蓄積を促す授業研究の方法論

—教職大学院生の自主的な「模擬検」の取り組み

○津田 涼平（大阪教育大学大学院連合教職実践研究科）

○八田 幸恵（大阪教育大学）

11:20~12:00

全体討議

## 第25分科会

司会：島田 希 (大阪公立大学)

9:30~10:00

南アフリカ指導主事研修におけるルーブリック評価の信頼性と課題：日・南ア評価者の比較分析

○小野 由美子 (早稲田大学総合研究機構教師教育研究所)  
前田 美子 (大阪女学院大学)

10:00~10:30

教師エージェンシーを通じた批判的リフレクションに関する考察

○千々布 敏弥 (国立教育政策研究所)

10:30~11:00

授業づくりを支える「熟議」と「承認」の実践的意味－オーラルヒストリーにみる教師の実践的自己理解の軌跡－

○福島 健介 (帝京大学)

11:00~11:30

教育学科で学ぶすべての学生にとっての有意義な学びの場づくりをめざして  
－授業の振り返りシートを基にした検討－

○吉岡 良江 (関西福祉科学大学)

11:30~12:00

全体討議

## 第26分科会

司会：鹿毛雅浩（慶應義塾大学）

9:30~10:00

「授業づくりの共同注視関係における省察モデル」活用の成果と課題

○岸本 啓司（向日市立第6 向陽小学校）

10:00~10:30

対話的授業において学びの深さを生み出す教師の実践と省察に関する探索的研究

○吉永 紀子（同志社女子大学）

10:30~11:20

子供の内面に潜む「見方・考え方」を捉えた授業研究

～「学習者観察シート」と「8つの問い」による授業後の対話型省察を通して～

○山中 謙司（北海道教育大学旭川校）

○谷地元 直樹（北海道教育大学旭川校）

11:20~12:00

全体討議

## 第27分科会

司会：小原 一馬 (宇都宮大学)

9:30~10:00

教師のたまごとしての自分自身を追求

ーフィンランド人と日本人教員養成課程の学生ストーリーの分析を通して

○ LASSILA ERKKI TAPIO (神戸大学)

10:00~10:30

比喩生成課題を用いた教育実習生の教育実習観

ー私立一般大学の一事例ー

○ 濱崎 未育 (明治大学大学院)

10:30~11:00

「ありたい教師像」と「ありのままの教師像」に着目した教育実習プログラム

○ 篠原 嶺 (奈良教育大学附属中学校)

11:00~11:30

よそ者概念から見た教育実習生

ー臨床に基づくエスノグラフィー調査からー

○ 高橋 俊樹 (名古屋大学大学院)

11:30~12:00

全体討議

## 第28分科会

司会：金馬国晴（横浜国立大学）

9:30~10:00

教職大学院の実務家教員が教育実践研究の方法論を学ぶためのWebコンテンツの開発

○木原 俊行（四天王寺大学）

野中 陽一（横浜国立大学）

小柳 和喜雄（関西大学）

10:00~10:30

教員養成におけるTELT実践の検討 模擬授業を通じた学生の学びと指導力の深化

○深田 将揮（神戸学院大学）

10:30~11:20

教職大学院における「高度な実践力養成」に関する意識調査

○荒巻 恵子（帝京大学大学院）

○高旗 浩志（岡山大学）

○下田 誠（東京学芸大学）

中村 和弘（東京学芸大学）

三石 初雄（東京学芸大学）

張 揚（北海道大学）

望月 耕太（神奈川大学）

11:20~12:00

全体討議

## 第29分科会

司会：吉岡真佐樹(京都府立大学・名誉教授)

9:30~10:00

1920年代アメリカの州立師範学校における初等教育教員養成カリキュラム改革の具体  
—ティーチャーズ・カレッジへの発展動向が与えた影響に着目して—

○奥田 修史(盛岡大学)

10:00~10:30

中国内モンゴル自治区における中等職業教育の教員養成に関する一考察

○邸 碩(大阪公立大学文学研究科)

10:30~11:00

中国における開放制教員養成の実態に関する一考察  
—陝西師範大学を事例として—

○曹 映雪(慶應義塾大学)

11:00~11:30

現代米国教員養成における「文化的に応答的な指導(culturally responsive teaching)」の理  
論と実践

○永岡 珠瑠(神戸大学大学院)

11:30~12:00

全体討議

## 第30分科会

司会：小野瀬善行（宇都宮大学）

9:30~10:00

米国メリーランド州教員免許・研修制度の構造と運用実態  
ーボルチモア郡学区に着目してー

○藤本 駿（高松大学）

10:00~10:30

教員の副業: インドネシアにおける調査から

○前田 美子（大阪女学院大学）

10:30~11:20

「代理教員」の機能と可能性：オーストラリアを事例に

○佐藤 仁（福岡大学）

○原北 祥悟（崇城大学）

11:20~12:00

全体討議

## 第31分科会

司会：米沢崇（広島大学）

9:30~10:00

令和の日本型学校教育と働き方改革のはざままで

—公立中学校における教員意識の可視化とシステム思考による解決モデルの提案

○渡邊 進武（愛知県立大学）

10:00~10:30

教師から見た「アセスメントのためのケース会議」の現状と課題

—教師とスクールカウンセラーの協働に焦点を当てて—

○稲垣 智則（東海大学）

吉田 浩二（東海大学）

中野 真理（東海大学）

10:30~11:00

スペインの教員制度にみる働き方の構造

—日本の教員労働環境への示唆を求めて—

○竹内 愛音（鳴門教育大学大学院）

11:00~

全体討議

## 第32分科会

司会：久保富三夫（和歌山大学・名誉教授）

9:30~10:00

教師たちは何を「負担」として語るか：働き方改革をめぐるナラティブ分析

○小田 郁予（都留文科大学）

野村 駿（秋田大学）

菊地 原守（鹿屋体育大学）

10:00~10:30

小、中学校教師が認識する業務実態に関する質問紙調査研究  
ーワークエンゲージメント及びストレスとの関係を中心にー

○水本 徳明（同志社女子大学）

10:30~11:00

多忙化・教員不足時代の教員：正規・非正規の意識調査から

○和井田 節子（NPO法人子ども支援プラットフォーム）

11:00~11:30

認知モデルの開発の視点から指摘する共育の到達点

○下村 拓滋（affirmativeArchitect）

11:30~12:00

全体討議

## 国際交流部

## International Special Sessions

## 英語による特設セッション

本学会は、1991年の設立以来、教育専門家の育成を趣旨として、様々な視野からの総合的な研究による、これからの教師教育の創造を目指した学会活動に取り組んできました。そして、この第35回大会から初めて、研究発表を通じた国際交流の場として、“英語による特設セッション”を設けました。また、このセッションに限ってですが、非会員のかたにも参加の機会を開き、オープンな議論の場を目指すことにいたしました。

Moderator : Mori Hisayoshi (Kyoto Women's University)  
Yano Hiroshi (Otsuma Women's University)

9:30~10:00

Fostering (critical?) reflection in teachers' education

○Agnieszka Szplit (Jan Kochanowski University of Kielce)  
Zuzanna Zbrog (Jan Kochanowski University of Kielce)

10:00~10:50

From Training to Transformation: Exploring Professional Identity in Cambodia's Teacher Education Reform

○Siddik MD Abu Bakor (The University of Tokyo)  
○Ogisu Takayo (The University of Tokyo)

10:50~11:20

Basic Research for Teacher Education in Japan to Foster Science Identity: Perspectives from Education for Sustainability in Australia

○Rumi Haraguchi (Tokyo Gakugei University)  
Asami Ohnuki (Shirayuri University)

11:20~11:50

Promoting Global Competencies in Initial Teacher Education Practice in Japan – Issues and Challenges for Overseas Practicum

○Yasuyuki Iwata (Tokyo Gakugei University)

## 課題研究 I

### 年報第 34 号特集 『実践研究』を問う』をめぐって

#### 【趣旨】

本学会年報第 34 号では、課題研究 I 部会が協力し、特集 『実践研究』を問う』を構成した。以下が執筆者およびタイトルの一覧である。

- |           |  |
|-----------|--|
| ①渡辺貴裕     | 「実践研究論文」をめぐる議論の整理のための試論                                    |
| ②有井優太     | 教職大学院における実践研究の在り方の探究 — 学術論文と実践記録・報告の二項対立を超えて —             |
| ③八田幸恵・大坂遊 | 教科教育による実践／実践研究の捉え方の違い — 国語科教育と社会科教育を事例に —                  |
| ④大村龍太郎    | 大学教職関連授業における授業者自身の実践研究を問う — 教師教育学会年報における実践研究群の考察をもとに —     |
| ⑤園部友里恵    | 年報「実践研究論文」採択者にとっての「実践研究論文」とは — 実務経験の有無と投稿区分選択への「迷い」に着目して — |
| ⑥齋藤眞宏     | なぜ教師教育におけるセルフスタディなのか — 協働性からの専門性開発のために —                   |
| ⑦南浦涼介     | 教師教育の実践研究とポリティクス — 外国人児童生徒をめぐる〈教育〉装置の力学のジレンマから —           |

①～③が「実践研究」全般を扱うもの、④～⑦が教師教育の実践の「実践研究」に焦点を合わせるものである。今大会では、指定討論者を招き、各論文の簡潔な内容紹介と相互批評を行う。会場で頒布予定の年報第 34 号を持参の上ご参加いただくと幸いである。

#### 【登壇者】

- |         |   |
|---------|---|
| 特集論文執筆者 | 渡辺貴裕 (東京学芸大学) ※コーディネーター兼<br>有井優太 (新潟大学)<br>八田幸恵 (大阪教育大学)<br>大坂遊 (周南公立大学)<br>園部友里恵 (三重大学)<br>齋藤眞宏 (旭川市立大学)<br>南浦涼介 (広島大学)<br>※執筆者のうち、大村龍太郎 (早稲田大学) は公務のため不参加 |
| 指定討論者   | 若松大輔 (弘前大学)   |

## 課題研究Ⅱ

### 教師教育学の研究アプローチ

教師教育学は研究アプローチの多様性を特徴としている。本課題研究は、この「マルチディシプリン」という本学会の特徴にあらためて焦点を当て、研究アプローチという観点から教師教育学の学術的な基盤を確認することを通して、今後の研究を展望し、さらなる研究の活性化をめざすことを目的として設定された。

これまでの研究活動としては「私と教師教育学」というテーマを設定し、多様な研究アプローチをしている研究者が相互に話題提供と意見交換をすることを通じて、「マルチディシプリン」という本学会の特徴を明らかにするとともに、教師教育学の学術的な基盤について理解を深めてきた。その過程で、初等中等教育をはじめとする多様な教育の現場で日々の仕事に取り組んでいる実践者（とりわけ「研究的実践者」）、さらには大学等に身を置きながらも実践の現場と密に関わる「実践的研究者」が本学会に集っているということ自体の意義、重要性がみえてきた。その多様な構成員による研究活動、実践活動や、研究に対するニーズにあらためて着目することを通して、教師教育学という研究分野の独自性を見出すとともに、今後の研究のあり方を展望できればと考えている。

そこで第35回大会では、以上のようなこれまでの研究活動の経緯を踏まえ、本学会ならではのユニークな学術的な特徴を明らかにすることを通じて、研究アプローチに関する「見取り図」を描くことを目指し、参加者とともに協議を深めることを目的とした研究交流の場を設ける予定である。

#### <話題提供者>

鹿毛雅治（慶應義塾大学）／木原俊行（四天王寺大学）／須田将司（学習院大学）／高谷哲也（鹿児島大学）／長谷川哲也（岐阜大学）／羽野ゆつ子（大阪成蹊大学）／三品陽平（愛知県立芸術大学）

#### <指定討論者>

岩田康之（東京学芸大学）  
岩瀬直樹（軽井沢風越学園）

## 課題研究Ⅲ

### 〈地域的文脈〉からひも解く教員不足問題

#### 【趣旨】

これまで本部会では、国際比較研究を方法論に、世界的にみられる「教員不足[Teacher Shortage]問題」にアプローチしてきました。現部会メンバーが前期を引き継いでおり、前期に確認した「多様な教職ルートの存在」を前提に、「教員不足」の定義の問題を常に見据えながら、昨年大会では〈量的不足〉と〈質的不足〉をとらえ直し、〈入り：採用・入職〉と〈出：退職〉の軸とのマトリックスを枠組みに、慢性的な問題／喫緊性の問題を対照しながら会場と議論を深めました。

今大会では、教員不足問題について「地域的文脈」に焦点化し、人口や人材の集中する都市部と、周縁地域・遠隔地域を対照し、国内外の事例に基づきながら議論を組みます。

一つには「異動」という日本的な事情や、また、圧倒的な人員不足のなか多様な“支援員”や関係スタッフに支えられざるをえない等の地域間の実情の差異に着目することによって、〈足りないのは“誰”なのか〉、〈補っているのは何なのか（／何は補われないのか）〉という視線で、「教員“不足”」問題を会場参加者とともに検討したいと考えています。

国際比較の事例として、オーストラリアと中国を取り上げ、日本国内でも広大かつ遠隔という地域的文脈から北海道の学校・教員事情を取り上げて照らしながら、議論の展開をねらいます。

#### 【コーディネーター】

矢野 博之（大妻女子大学）

#### 【登壇予定者】

伊井 義人（大阪公立大学） オーストラリアの事例から

張 揚（北海道大学） 中国の事例から

佐藤 仁（福岡大学）

原北 祥悟（崇城大学）

#### 【指定討論者】

玉井 康之（北海道教育大学釧路校）

## 第4回研究倫理学習会

（研究倫理委員会・若手研究者育成支援部・課題研究Ⅰ部会 合同企画）

### 教師教育研究における「実践研究」のデザインと倫理

教職大学院の全国的な拡大を一つの契機に、教育学諸領域で「実践研究」が盛んに行われている。本学会は2005年9月に『研究論文』と『実践研究論文』の区分に関する申し合わせを定め、早々と本学会年報に「実践研究」の成果を公表する場を設けた。以来今日に至るまで、教師教育の実践を対象とする優れた実践研究論文を掲載している。他方、教師教育研究における「実践研究」はいまだ発展の途上にあり、研究の方法や内容、倫理的配慮のあり方など、議論すべき課題も多い。さらにこの「実践研究」には、アカデミックな背景をもつ研究者だけではなく、様々な背景をもつ人々が参画しており、その多様さは本学会の特長であるものの、共通した基盤で議論する難しさも生み出している。こうした問題関心から第35回研究大会では、研究倫理委員会、若手研究者育成支援部、課題研究Ⅰ部会の3委員会・部会が共同して、教師教育研究における「実践研究」のデザインと倫理をテーマに、本学会の現状を多角的に捉えつつ、学会員相互の議論を通じて「実践研究」に対する理解を深めるための学習会（第4回研究倫理学習会）を企画した。

学習会では、まず話題提供者の方々より、「実践研究」をめぐる本学会の現状を様々な視点やデータからご報告いただくとともに、教育を対象とした「実践研究」そのものが抱える課題や今後の展望について提起していただく。これに続く全体討議では、学習会に参加された学会員それぞれの立場・経験や他学会の動向などをもとに、本学会の特長をいかした「実践研究」のデザインと倫理のあり方について議論を深めたい。

・ 話題提供者： 岩田康之（東京学芸大学・日本教師教育学会会長）

菊地原守（鹿屋体育大学・研究倫理委員会）

渡辺貴裕（東京学芸大学・課題研究Ⅰ部会）

園部友里恵（三重大学・課題研究Ⅰ部会）

・ コーディネーター： 長谷川哲也（岐阜大学・研究倫理委員会）

高旗浩志（岡山大学・若手研究者育成支援部）

## ラウンドテーブル

### ①教師・教師教育者の専門性の探究：「セルフスタディ実践のひろば」研修会報告

(4A43教室)

#### 【企画者・登壇者】

齋藤眞宏 (旭川市立大学)

大西慎也 (神戸学院大学)

岡村美由規 (広島大学)

佐々木恵美子 (聖隷クリストファー小学校)

幸坂健太郎 (北海道教育大学)

茂木智央 (新渡戸文化小学校)

#### 【概要】

「教えること」さらに「教えることを教えること」は、複雑な営みである。しかしそれに対する社会的理解は十分とはいえない。セルフスタディは、そのような社会的矛盾を背景に、教師・教師教育者のための研究・研究方法論として主に英語圏で発展してきた。日本には2015年に紹介され、昨年には『セルフスタディを实践するー教師教育者による研究と専門性開発のために』『教師のためのセルフスタディ入門ー協働的な問いによる実践の改善ー』が刊行された。9月には、専門職コミュニティづくりを意識して「セルフスタディ実践のひろば」という場がFacebook上に創設され、学術・実践交流を行ってきた。本年8月にはメンバーらが対面で合宿研修を行い、教師・教師教育者の専門性について、実践事例を通して、協働的な探究を行なった。本ラウンドテーブルでは、その合宿研修における学びを紹介し、参加者とともに「教えること」さらには「教えることを教えること」について議論を深めたい。

### ②国際的なディスコースから教師教育のあり方を再考する

(4A46教室)

#### 【企画者・登壇者】

深見俊崇 (島根大学)

百合田真樹人 (独立行政法人教職員支援機構)

香川奈緒美 (島根大学)

森久佳 (京都女子大学)

#### 【概要】

UNESCOのイニシアチブ"Reimagining our Futures Together"は、より持続可能で公正な世界を形成する上で教育が果たす役割について、われわれに新たな考察を促すものである。「公共の努力と共通善としての教育」を目指すため、グローバルなディスコースの構築と、ローカル

なコミュニティが主導する包括的で協力的な連帯との両輪によって教育改革を主導することが目指されている。本ラウンドテーブルでは、国際的なディスコースを参照しつつ、そこで目指される方向性に基づく教師教育をいかに実現するかを議論していく。

### ③教師の仕事に関する中国最新調査研究の動向 ――東北師範大学の中国教師発展報告を中心にして

(4B41教室)

#### 【企画者・登壇者】

下田誠 (東京学芸大学)

李広 (東北師範大学 教育部幼稚園園長研修センター)

張揚 (北海道大学)

三石初雄 (東京学芸大学)

賀佳 (東北師範大学)

#### 【概要】

このラウンドテーブルでは、東北師範大学教師教育研究院で同大学の教師教育を先導し、現在は教育部幼稚園園長研修センターのセンター長である李広氏より2022年度『中国教師発展報告』の中心テーマ「中小学校教師の仕事負担」等をめぐり、話題提供をしていただきます。李氏は近年発表の論考において、中国における31の省と都市の48,874人の小中学校の教師を対象に行った調査の結果を発表し、教師の勤務環境を明らかにしています。研究では中国の小中学校の教師にかかる教育業務以外の負担や世代間の相違等、さまざまな角度から分析を加えています。日本では学校においても働き方改革が進行していますが、中国の事例を参照に、議論を深める機会とします。

### ④教師養成と子ども文化―そして遊べる教師がいなくなった⑩

―幼保小連携・接続に向けた今後の教員・保育者養成のあり方を考える―

(4B45教室)

#### 【企画者・登壇者】

時田詠子 (群馬医療福祉大学)

田中卓也 (育英大学)

西田明史 (中村学園大学)

中塚健一 (小田原短期大学)

中島眞吾 (中部大学)

#### 【概要】

我々はこれまで、日本教師教育学会・研究大会のラウンドテーブルにおいて、「教員養成と子どもの遊び」について検討を重ねてきた。今回はその10回目である。

本ラウンドテーブルのメインテーマは、昨年引き続き「教師養成と子ども文化―そして遊べる教師がいなくなった⑩」を掲げる。そして今回は、「幼保小連携・接続に向けた今後の教

員・保育者養成のあり方を考える」として、幼児教育、学校教育等を研究対象とするメンバーの報告をもとに、参会者と検討していきたい。

報告の例として、「幼保小連携・接続に関する大学教員の授業の現状」、「京都の子どもたちの学びと育ちを地域で支える—中京区内公立幼稚園、公立小学校の事例を中心に—」、「小学校教員・保育者の各養成課程の学生の協働による地域活動実践の意義」、「幼保小接続の視点から見た小学校生活科の位置づけ」、「小学校教員を目指す学生が幼児教育について学ぶ意義とは」などを予定している。

## ⑤学校を基盤とする教師教育者の専門性育成

(4B54教室)

### 【企画者・登壇者】

- 若木常佳 (福岡教育大学)
- 宮本浩治 (岡山大学)
- 村上忠幸 (京都教育大学)
- 矢野博之 (大妻女子大学)

### 【概要】

日本の教師教育は、指導内容や指導の方法の精緻化や、いかに効果的に学力向上を意図してうまく教えることができるかという視点で構成され、教職志望者(学部生・院生)も教師教育者自身にもティーチング文化が根付いている。これは佐藤仁(2024:11)の論述を参考にすれば、「1950年代から1980年代初頭にかけて」行われた「効果的な教師の行動技術」の「訓練」の“残滓”とも言うべきものである。

教職という仕事は習得の積み上げではない。必要なのは「訓練」ではなく、教師としての学校に向き合った時に、“教師としての”よりよい自分を生み出していくために自分で考えていく力である。真に「教師が主体的に継続的な専門職の学習に参画し、協働的な学びを通して成長していく」(佐藤2024:10)のために、私たちはどうすることが必要なのか。本ラウンドテーブルでは、オランダの事例を手がかりに参加者と対話的に考えていきたい。

- ・佐藤仁(2024)「客体としての教師教育を問い直す-複雑系とインターセクショナリティを手がかりに--」『日本教師教育学年報』33:10-22
- ・本研究は、24K05688「自律的な教師の自己成長に培う教師教育者の専門性開発と育成に関する研究」の一環である。

# 大学における教員養成の未来

—「グランドデザイン」の提案 定価2,640円

●日本教師教育学会 監修  
鹿毛雅治・勝野正章・牛渡淳・岩田康之・浜田博文 編著  
未来に生きる子どもたちの学校教育を担う教師のあり方を学術的に検討し、日本独自の教員養成モデルを提案。



# 「だれが教師をめざすのか」の教育社会学

—「観察による徒弟制」と教員養成 定価2,970円

●太田拓紀 著  
「だれが教師をめざすのか」をテーマに、現代の若者が教職を選択し、養成段階にいたるまでの過程とそこに潜む課題を検証する。



# 「令和の日本型」教育と教師

—新たな教師の学びを考える

●日本教師教育学会 編 定価1,100円

「令和の教師教育改革」に関する学習会とシンポジウムの内容をまとめたブックレット。教師のあり方のより深い検討のために。



# 教員志望学生の不安や悩みをどう理解するか

—現代アメリカにおける支援実践から

●太田知実 著 定価3,740円

不安や悩みを和らげ、良い教員としてどう育てるか。多文化教育を基盤とする、現代アメリカの動向を手がかりに向き合う。



# ユネスコ・教育を再考する

—グローバル時代の参照軸

●日本教師教育学会第10期国際研究交流部  
百合田真樹人・矢野博之 編訳著 定価2,200円

「Rethinking Education」待望の翻訳。ユネスコの教育政策と実践の基盤議論を読み解く。重要語句や概念群の解説を加え紹介。



# 「省察」を問い直す

—教員養成の理論と実践の検討

●山崎準二・高野和子・浜田博文 編 定価3,080円

大学における教員養成の「省察」言説を相対化し、不可視化された問題状況を明らかにする。今一度、「省察」を問い直す。



# 校長のリーダーシップ

—日本の実態と課題

●浜田博文・諏訪英広 編著 定価3,300円

校長のリーダーシップ発揮を支え、促すための制度的・組織的条件の在り方を追究し、そのための条件整備を提示。



# 教師のためのセルフスタディ入門

—協働的な問いによる実践の改善

●アナスタシア・P・サマラス 著 武田信子 監訳 定価4,950円

教師並びに教師教育者のためのセルフスタディの指南書。世界的な教師教育者による方法論「セルフスタディ」解説書がついに邦訳。



# 「大学における教員養成」の日本的構造

—「教育学部」をめぐる布置関係の展開

●岩田康之 著 定価3,410円

教員養成に関わる諸アクターの力関係＝「布置関係」に着目し、主に歴史的な視覚と国際比較的な視覚の双方から分析。



# セルフスタディを実践する

—教師教育者による研究と専門性開発のために

●齋藤真宏・大坂遊・渡邊巧・草原和博 編著 定価3,630円

セルフスタディで、教師教育を耕す日本解説書&研究事例集。広島大学教育ヴィジョン研究センターを拠点に積み重ねられてきた研究成果をここに公開。



# 教師教育研究ハンドブック <電子版>

●日本教師教育学会 編 定価6,600円

日本教師教育学会の25年間の研究の蓄積と最新の知見をベースに教師教育の研究と実践と政策に関する概念・用語を包括的に提示。

※ご購入方法等、詳しくは右記QRコードもしくは弊社WEBサイト(下記アドレス) (https://www.gakubunsha.com/)から「教師教育研究ハンドブック」を検索



F.コルトハーヘン 著 山辺恵理子 他訳  
**パワー・オブ・リフレクション**  
—教師教育と専門家養成に必要なこと

近刊!!  
2025年秋

# 未来の教育を創る教職教養指針シリーズ <全11巻>

山崎準二・高野和子 編集代表 現代日本の教師研究を基盤にすえた高度な専門職をめざす現職教師および教員志望学生のためのテキスト

- ①教育原論 ●山崎準二 編著 定価2,200円
- ②教職原論 ●高野和子 編著 定価2,200円
- ③発達と学習 ●鹿毛雅治 編著 定価2,200円
- ④教育と社会 ●山布佐和子 編著 定価2,200円
- ⑤教育の法制度と経営 ●勝野正章 編著 定価2,200円
- ⑥カリキュラム・マネジメントと教育課程 ●金馬国晴 編著 定価2,200円
- ⑦教科と総合の教育方法・技術 ●子安潤 編著 定価2,200円
- ⑧道徳教育 ●下司晶 編著 定価2,420円
- ⑨特別活動 ●矢野博之 編著 定価2,200円
- ⑩生徒指導 ●庄井良信 編著 定価2,310円
- ⑪教育相談 ●武田信子 編著 定価2,200円

# 教師のための教育学シリーズ <全13巻>

教師のための教育学シリーズ編集委員会 監修 全巻好評発売中!!

- ①新版 教職総論 ●大村龍太郎・佐々木幸寿 編著 定価2,420円  
読者が教職の本質を自ら問い、流されるよう構成。時代に合わせて修正を加えた、新版。
- ③新版 学校法 ●佐々木幸寿 編著 定価2,750円  
学校・教育にまつわる法律の概説を網羅。新しい時代の「学校法」のあり方を検討する。
- ⑩生徒指導・進路指導 第三版 ●林尚示・伊藤秀樹 編著 定価2,420円  
生徒指導と進路指導についてバランスよく全体を網羅。最新の調査結果を掲載した第三版。
- ⑬教育方法とICT ●高橋純 編著 定価2,310円  
教育方法に関する基礎的な知識技術と、ICT活用能力の獲得を目的としてまとめられた1冊。

やさしく学ぶ教職課程 シリーズ 高い専門性を発揮しつつも 初學者でも「やさしく」学べる!!

- 教育の方法・技術とICT ●古賀毅・高橋優 編著 定価2,310円
- 幼児と児童のための教育とICT活用 ●末松加奈 編著 定価1,980円
- 教育相談 ●角南なおみ 編著 定価2,530円
- 教師論 第二版 ●中嶋みさき・中井睦美 編著 定価2,310円
- 特別支援教育 ●是永かな子・尾高進 編著 定価2,530円
- 教育心理学 ●児玉佳一 編著 定価2,530円
- 教育原理 ●古賀毅 編著 定価2,310円

株式会社  
学文社



〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1  
TEL 03-3715-1501 FAX 03-3715-2012

Email eigyo@gakubunsha.com  
URL https://www.gakubunsha.com/

## よい教育研究とはなにか

流行と正統への批判的考察

ガートビースタ 著 巨理陽一、神吉宇一、川村拓也、南浦涼介 訳 ◎2970円

## 海外の教育のしくみをのぞいてみよう

日本、ブラジル、スウェーデン、イギリス、ドイツ、フランス

園山大祐 編著 ◎3300円

## 日本で暮らすムスリムの子どもたちの教育

イスラームを学ぶ・生きる・継承する

服部美奈 監修 内田直義、千田沙也加、中島悠介、松本麻人、見原礼子 編著 ◎3850円

## 東南アジアのリバース・ジェンダー・ギャップ

進む女性の高学歴化は何を意味するのか

鴨川明子、服部美奈 編著 ◎2970円

## 北欧の教育新潮流 未来につなぐ子育てと学び

佐藤裕紀、林寛平、中田麗子、本所恵、北欧教育研究会 編著 ◎2420円

## 学校の時数をどうするか

現場からのカリキュラム・オーバーロード論

大森直樹 編著 永田守、水本王典、水野佐知子 著 ◎2640円

## モビリティーズ研究のはじめかた

移動する人びとから社会を考える

伊藤将人、鍋倉咲希、野村実、吉沢直、金磐石、鈴木修斗 編著 ◎2860円

## 群れから逸れて生きるための自学自習法

向坂くじら、柳原浩紀 著

◎1980円

## ことばの教育の力 〈自由の相互承認〉の実質化をめざして

佐藤慎司、稲垣みどり、苫野一徳 編著

◎2970円

## 公正と包摂をめざす教育

OECD「多様性の持つ強み」プロジェクト報告書

経済協力開発機構(OECD) 編著 佐藤仁、伊藤亜希子 監訳 ◎2970円

## 「多様な教育機会」をつむぐ

ジレンマとともにある可能性 【公教育の再編と子どもの福祉①〈実践編〉】

森直人、澤田稔、金子良事 編著 ◎3300円

## 「多様な教育機会」から問う

ジレンマを解きほぐすために 【公教育の再編と子どもの福祉②〈研究編〉】

森直人、澤田稔、金子良事 編著 ◎3300円

## 多文化ファシリテーション

多様性を活かして学び合う教育実践

秋庭裕子、米澤由香子 編著 ◎2640円

## 「教育輸出」を問う

日本型教育の海外展開(EDU-Port)の政治と倫理

高山敬太、興津妙子 編著 ◎4950円

## 学習環境デザイン

革新的教授法を導く教師のために

OECD教育研究革新センター 編著 富田福代 監訳 篠原康正、篠原真子 訳 ◎3850円

## 知識専門職としての教師

教授学的知識の国際比較研究に向けて

ハナー・ウルファーツ 編著 OECD教育研究革新センター 編 西村美由起 訳 ◎4950円

# 明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5  
TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174

URL : <https://www.akashi.co.jp/>  
E-mail : [eigyo@akashi.co.jp](mailto:eigyo@akashi.co.jp)

\*図書目録送呈  
\*価格税込

新しい生徒指導を深く学べる! 教師を目指す人に読んでほしい1冊!

# 生徒指導・教育相談 を基礎から分かりやすく説明!

2022年に改訂となった「生徒指導提要」が、改訂から1年が経ち、少しずつ現場でも新提要に基づいた生徒指導が模索されています。本書では、生徒指導提要の改訂内容を意識しながら、教育相談や生徒指導の基礎、体制、実際について分かりやすく示しています。

## 教師を目指す 人たちのための 生徒指導・ 教育相談

編著  
望月 由起 (もちづき・ゆき)  
日本大学文理学部教育学科教授  
劉 麗鳳 (りゅう・れいほう)  
日本大学文理学部教育学科助手



●A5判・216ページ ●定価2,640円(本体2,400円+税) ●ISBN: 978-4-7619-2992-3

- 第1章 生徒指導の基礎
- 第2章 生徒指導と教育課程
- 第3章 教育相談の意義
- 第4章 教育相談における基本的態度と役立つ心理支援
- 第5章 「チーム学校」としての生徒指導・教育相談体制
- 第6章 いじめ
- 第7章 暴力行為・少年非行への対応
- 第8章 児童虐待
- 第9章 自殺
- 第10章 不登校・中途退学
- 第11章 インターネット・携帯電話に関する問題
- 第12章 性やジェンダー
- 第13章 発達障害・精神疾患
- 第14章 外国ルーツの子どもたち

詳しくは、こちらをクリックして「学事出版」ホームページをご覧ください。

学事出版 千代田区神田神保町1-2-5 和栗ハトヤビル3F TEL03-3518-9016 FAX 03-3518-655-514

## 教員をめざす人、学校管理職、 教職員、教育行政職員の必携書

現行学習指導要領が告示されて8年が経ち、あと数年のうちに次期学習指導要領の改訂が行われる。

この間、コロナ禍を経てGIGAスクール構想が加速度的に実現し、学校のあり方は大きく変わった。これまでの教育の制度やマネジメントの仕組みは何かどう変わったのか、あるいは変わらない部分は何か。

「学校のカリキュラム・マネジメント」「GIGAスクール構想の実現と教育DXの推進」など、時代の変化に合わせた新章を加え、詳しく解説する。



改訂新版

## 教育の制度と学校のマネジメント

編：加藤崇英 臼井智美

著：高野貴大 吉田武大 福島正行 照屋翔大

田中真秀 張 信愛 石崎ちひろ 川口有美子 吉田尚史

●A5版・212頁 定価：本体2,000円+税 ISBN：978-4-7887-2016-9



時事通信出版局

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル8F  
tel.03-5565-2155 fax.03-5565-2168 <https://bookpub.jiji.com>

### 教員養成学を考える

上越教育大学「教員養成学」書籍編集委員会編 4180円

### 大正新教育の実際家

橋本美保編著 4070円

### 授業リフレクション研究による学びの考究

澤本和子著 7700円

### 質の認識としての音楽科カリキュラム

西園芳信著 5500円

### 子どもの社会的思考力・判断力の発達と授業開発

加藤寿朗・梅津正美・前田健一・新見直子著 3300円

### 子ども観と評価でみる学校教育史

松本和寿著 8250円

### ドイツの学力調査と授業のクオリティマネジメント

原田信之著 2750円

### レリバンスの構築を目指す令和型学校教育

關浩和・吉川芳則・河邊昭子編著 4180円

### 歴史教師のビリーフに関する国際比較研究

宇都宮明子・原田信之編著 2750円

### 教育における女性リーダーシップ

J・ワイナー M・C・ヒギンズ著 八尾坂修他訳 2970円

### A Plurilingual Approach for Foreign Language Education in Japan

王 林鋒著 8800円

### 社会科教育からのケイパビリティ・アプローチ

志村 喬編著 3300円

### 近現代日本教員史研究

船寄俊雄・近現代日本教員史研究会編著 4950円

### 動態的法教育学習理論開発研究

中平一義著 9350円

### 小学校における学習規律に関する学級経営研究

笹屋孝允著 7150円

### 社会系教科の評価をめぐる理論と実践

社会科の評価について考える会編 3080円

### 子どもの権利をまもるスクールロイヤー

松原信継・間宮静香・伊藤健治編著 2750円

### 1958年小学校学習指導要領の改訂過程

澤田俊也著 9900円

**専門職として成長し続ける教師になるために**

—教職詳説—

山崎 準二・紅林 伸幸 編著

A5 判並製 / 216 頁  
定価 2,420 円



**主権者を育てる社会科の授業**

—社会と出会う・社会を知る・社会を生きる

脇坂 圭悟・佐藤 学 著

四六判並製 / 192 頁  
定価 2,090 円



**教師養成についての考察**

エドワード・シュブランガー 著

黒澤 英典 訳

四六判並製 / 112 頁  
予価 1,650 円

近刊



**授業スタンダード**

—その展開と教師の反応

澤田 俊也 著

A5 判並製 / 146 頁  
定価 2,200 円



**探究モードへの挑戦**

—高度化・自律化をめざす  
SDGs 時代の人づくり

田村 学・佐藤 真久 編著

A5 判並製 / 280 頁  
定価 3,300 円



**教師のひと言の重さ**

—死囚の魂の回心

黒澤 英典 著

四六判並製 / 144 頁  
定価 1,650 円



**DX 時代の人づくりと学び**

降旗 信一・金馬 国晴・  
加納 寛子・佐々木 豊志 編著

A5 判並製 / 160 頁  
定価 2,200 円



**若手先生の若手先生による  
子どものための教育マネジメント**

杉本 敬之・村松 秀憲 著

A5 判並製 / 160 頁  
定価 2,200 円



**持続可能な社会をつくる  
幼児期のESD論**

—子どもと環境

降旗 信一・菊池 稔 編著

A5 判並製 / 160 頁  
定価 2,200 円



にんげん どう

人言洞 <NingenDo LLC> 〒234-0052 神奈川県横浜市港南区笹下 6-5-3

mail info@ningendo.net website https://www.ningendo.net



**注目近刊**

**日米教師教育政策の研究**

—教員スタンダード、ガバナンス、アカウンタビリティを中心に  
牛渡淳編著  
A5・四五二頁・六八二〇円

**教師教育におけるスタンダード政策の再検討**

—社会的公正、多様性、自主性の視点から  
牛渡淳・牛渡亮著  
A5・二四八頁・三七四〇円

**人と社会をつなぐ評価**

南浦涼介・三代純平・石井英真・中川祐治・佐藤慎司編著  
A5・二八〇頁・二九七〇円

**学校教育目標のアセスメントとカリキュラム・マネジメントの組織化に向けて**

溝上慎一編著  
A5・一六四頁・二二〇〇円

**教員養成を哲学する**

—教育哲学に何ができるか  
林泰成・山名淳・下司晶・古屋恵太編著  
A5・三五一頁・四六二〇円

**日本の海洋教育の原点**

田中智志・小国喜弘・田口康大編著  
—戦後国語科編  
A5・二八〇頁・三一九〇円

**戦後社会科編**

—道徳編  
A5・一五二頁・二八六〇円

**教科専門性をはぐくむ教師教育**

—日本社会科教育学会編  
A5・三一二頁・三五二〇円

**教室で論争問題を立憲主義的に議論しよう**

渡部竜也著  
A5・四一六頁・五五〇〇円

**世界の論争問題教育**

—閉ざされた領域をどう考えるか  
トマス・ミスコフ、ヤン・テ・グルーフ編著/渡部竜也監訳  
A5・四二〇頁・五七二〇円

**アメリカ社会科のインクルージョン理念と方略**

早瀬博典著  
A5・二七二頁・四六二〇円

**アメリカの体育カリキュラム設計論**

徳島祐彌著  
A5・三二〇頁・三七四〇円

**戦後台湾の英語教育**

平井清子著  
A5・四一六頁・七九二〇円

**学校音楽文化論**

—人・モノ・制度の諸相からコンテクストを探る  
笹野恵理子・学校音楽文化研究会編著  
A5・三六八頁・四九五〇円

東信堂  
直接注文  
お問い合わせ



man



楽天  
ブックス



honto



**東信堂**

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6  
HP <http://www.toshindo-pub.com>  
☎ 03-3818-5521 ☎ 03-3818-5514  
✉ toshindo.onlincorder1985@gmail.com  
✉ tk203444@tsinet.or.jp (代表)

\* 博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！



### 日本教師教育学会第35回研究大会プログラム

[発行者] 日本教師教育学会第35回研究大会実行委員会

委員長 上原秀一（宇都宮大学）

副委員長 丸山剛史（宇都宮大学）

事務局長 小野瀬善行（宇都宮大学）

委員 尾崎承子（宇都宮大学），小原一馬（宇都宮大学），田所貴大（宇都宮大学），  
外池彩萌（筑波大学大学院生）

[発行日] 初版 2025年8月25日

第二版 2025年9月15日

第三版 2025年9月19日

[連絡先 大会実行委員会] 〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350 宇都宮大学

共同教育学部上原秀一研究室 日本教師教育学会第35回研究大会実行委員会事務局

URL: <https://35th.jsste.jp/>

[連絡先 学会事務局] 〒277-0941 千葉県柏市高柳1674-4 日本教師教育学会事務局

TEL: 050-5806-6606 Email: [office@jsste.jp](mailto:office@jsste.jp)